

「クロスカリキュラム授業」指導案

授業者	授業日・実施教科
	2月9日・1学年「英語」
クロスする教科・科目	実施可能時期
地理×英語	1年生後半～

1 実社会、実生活から生じる問いや課題（本時のテーマ）

途上国での貧困はなぜ生じるのか

2 身につけてほしい学際的な見方・考え方（クロスする意義）

英文読解などの普通の授業の中にも「探究の種」はあふれている。  
社会課題を解決するためには「課題が生じている本質的な原因の調査・分析」が不可欠である。

3 展開

	教科・科目1「 英語 」	教科・科目2「 地理 」
導入 5分		①世界が抱える問題とその影響について尋ねる
展開 50分	②本時で扱う社会課題の概要把握（30分） ・「貧富の差」にかんする英文の読解 ・ワークシートで内容を確認 ・4人/班を編成し、割り当てられたパラグラフに取り組む。 ・解説を交えながら、内容について考察する。	③『現在も途上国で貧困が生じている原因』を考察（20分） ・SDGsの目標「貧困をなくそう」に触れ、現在も途上国で「貧困」生じている原因について考えることを促す。 ・南南問題、南北問題等について解説を行う。 ・貿易額が大きい国（機械類を主に輸出）と貿易額が小さい国（資源を主に輸出）のデータを示す。 ・データからどのようなことが分かるかを考察する。 ・資源が豊富でも、そのまま輸出したのでは豊かになれず、付加価値の高い製品を輸出できるようになることが豊かになるためには重要であることを伝える。 ・課題が生じている本質的な原因の調査・分析が重要であり、それをしっかりと行わないと的外れな解決策になってしまうことを具体例を挙げて説明する（資金援助、資源・原材料の買い取り等）。
まとめ 5分	④世界情勢と身近な日常の関連性を考え、個人として関わる重要性を伝える	